

平成31年1月25日（金）  
香川県高松市

平成30年度 全国メディカルコントロール協議会連絡会（第2回）

救急救命処置検討委員会における  
救急救命処置の追加、除外等に関する  
提案状況について

日本救急医療財団 救急救命処置検討委員会  
田邊晴山、坂本哲也

日本救急医療財団

行岡哲男

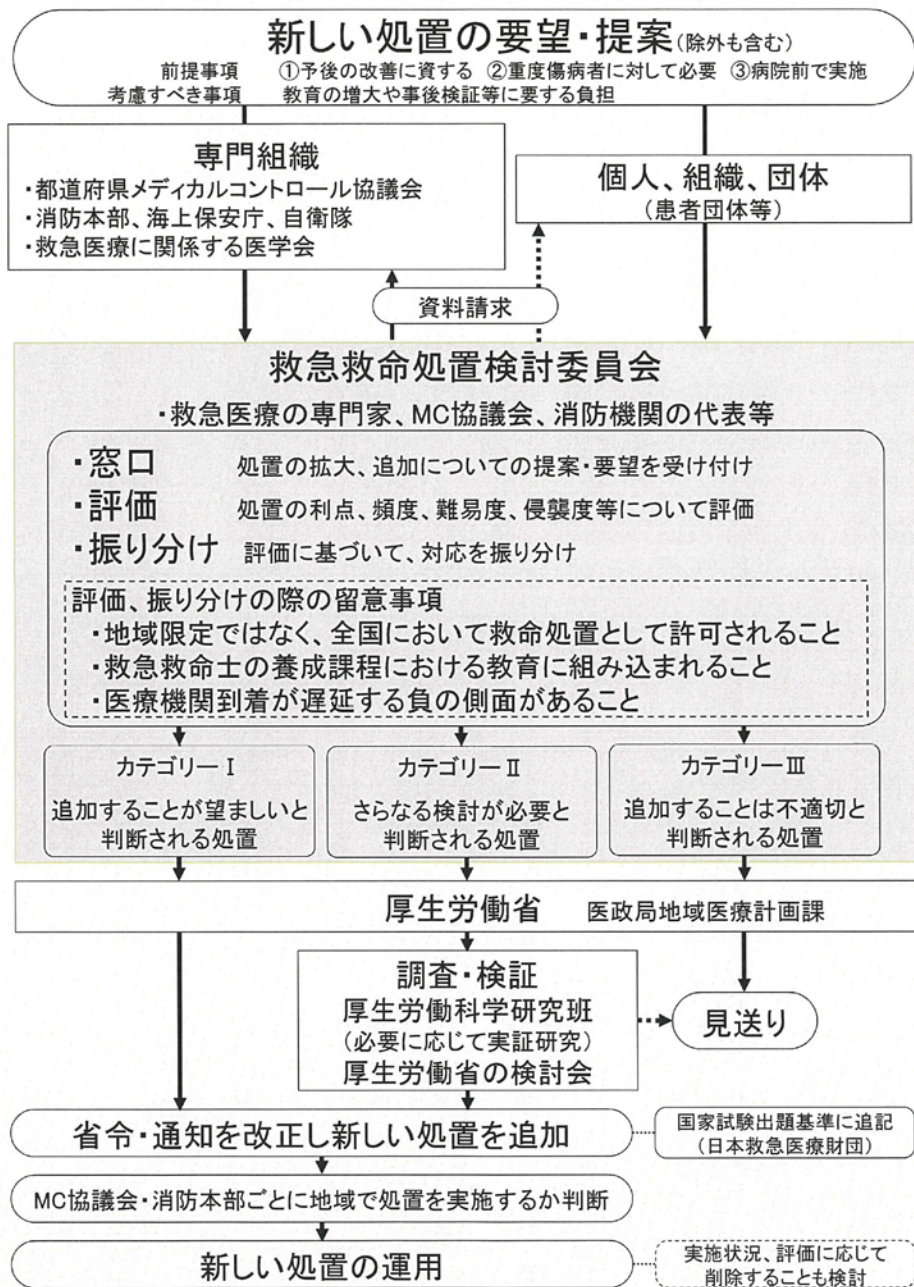
# 提案の募集

- 医学、医療は絶えず進歩・発展している。病院に到着する前までに行われる医療、すなわち病院前救急医療もその例外ではない。
- 救急救命処置についても、病院前救急医療の進歩、発展に応じて適切に見直す必要がある。
- 日本救急医療財団は、厚生労働省からの委託※を受け、「救急救命処置検討委員会」を設置し、救急救命処置の追加、除外等に関する提案について募集した。

※ 病院前医療体制充実強化事業

(救急救命士が行う救急救命処置に関する検討事業)

# 救急救命処置の追加、除外等の基本的な手順、流れ(概要)



※1. 平成26年度厚生労働科学研究「救急救命士の処置範囲に係る研究」 ※2. この内容は今後変更があることもあります。

(研究代表者 野口宏)別添を一部修正

委員長	坂本 哲也	帝京大学医学部救急医学講座主任教授
委員	阿部 和彦	仙台市消防局救急担当部長（全国消防長会救急委員会事務局）
委員	郡山 一明	救急救命九州研修所教授
委員	嶋津 岳士	大阪大学大学院医学系研究科救急医学教授
委員	田中 秀治	国士舘大学大学院救急システム研究科教授
委員	田邊 晴山	救急救命東京研修所教授
委員	長島 公之	公益社団法人 日本医師会常任理事
委員	松月 みどり	一般社団法人 日本救急看護学会代表理事
委員	溝端 康光	大阪市立大学大学院医学研究科救急医学教授
委員	森住 敏光	東京消防庁救急部長（全国消防長会救急委員会常任委員・参与）
委員	横田 裕行	日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野大学院教授
オブザーバー	飯塚 悠祐	厚生労働省医政局地域医療計画課 病院前医療対策専門官
オブザーバー	小谷 聡司	総務省消防庁救急企画室救急専門官
オブザーバー	山下 浩一郎	海上保安庁警備救難部救難課医療支援調整官
オブザーバー	行岡 哲男	財団理事長（東京医科大学常務理事）

# 救急救命処置検討委員会の役割

- 救急救命処置の追加、除外についての提案の受付
- 提案の評価
- 評価に基づいた振り分けと厚労省への報告

# 提案の概要

- 期間：平成30年9月3日～10月31日
  - 方法：財団ホームページからの電子登録
  - 提案者の要件
    - ①都道府県・地域MC協議会、消防機関、海上保安庁
    - ②次の学会・団体 ※
      - ・公益社団法人日本医師会 ・一般財団法人救急振興財団 ・全国消防長会
      - ・公益財団法人日本麻酔科学会 ・一般社団法人日本救急医学会
      - ・全国保健所長会 ・一般社団法人日本臨床救急医学会 ・全国衛生部長会
- ※ 全国メディカルコントロール協議会連絡会世話人会の構成団体

# 募 集 結 果

# 登録概要

- 受付数 15件
  - 既存の処置の見直し ・ ・ 3件
  - 既存の処置の削除 ・ ・ ・ 0件
  - 新規の提案 ・ ・ ・ ・ 12件
  
- 提案者の状況
  - 消防本部 ・ ・ ・ ・ ・ 10件
  - MC協議会 ・ ・ ・ ・ ・ 2件
  - 関連学会・団体 ・ ・ ・ ・ 3件

※1つの提案者からの最大提案数 6件



# 提案内容

## (1) 既存の処置の見直し

- ① 特定行為「乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液」、「エピネフリンの投与」の包括指示化（1提案）
- ② 特定行為「食道閉鎖式エアウェイ、ラリンゲアルマスクによる気道確保」（※気管内チューブを除く）の包括指示化（1提案）
- ③ 特定行為「乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液」、「エピネフリンの投与」、「食道閉鎖式エアウェイ、ラリンゲアルマスクによる気道確保」（※気管内チューブを除く）の包括指示化（1提案）

# 提案内容

## (2) 新規

- ① けいれんに対するジアゼパム坐剤の使用（1提案）
- ② 電気ショック抵抗性の心室細動等に対するアミオダロン塩酸塩製剤の静脈内投与（1提案）
- ③ 急性冠症候群に対するニトログリセリン製剤の口腔内投与（1提案）
- ④ 静脈路確保困難事例に対する骨内医薬品注入キットによる骨髄輸液路の確保（1提案）

# 提案内容

## (2) 新規

- ⑤ 外傷に対する超音波画像診断装置の使用による評価（2提案）
- ⑥ アナフィラキシーに対する自己注射が可能なアドレナリン製剤の使用（1提案）
- ⑦ アナフィラキシーに対するアドレナリン注射液の筋肉内投与（1提案）
- ⑧ 事故抜去事例に対する気管切開チューブの再挿入（1提案）

# 提案内容

## (2) 新規

- ⑨ 外傷による出血性ショックに対するトラネキサム酸の静脈内投与（1提案）
- ⑩ 急性冠症候群等に対する心電計の使用による12誘導心電図の測定と伝送（1提案）
- ⑪ 急性呼吸不全に対するマスクと人工呼吸器による非侵襲的人工呼吸（1提案）

※類似提案の整理や対象の明確化、薬剤名の一般名化などのため、提案者からの提案名とは異なる。

評 価

# 提案された処置の評価（手順の概要）

## 1. 外形的な確認

- (1) 提案者名、連絡先などの記載漏れはないか？
- (2) 提案者としての要件を満たしているか？
- (3) 資料の明らかな添付漏れはないか？ など  
→必要に応じて提案者に確認、修正を依頼する。

## 2. 新規性、類似性の確認と記載状況等の確認

- (1) 新規性、類似性の確認
- (2) 記載状況等の確認 など  
→必要に応じて提案者に確認、修正を依頼する。  
行政（厚生労働省、消防庁など）にも問い合わせる。

# 提案された処置の評価（手順の概要）

## 3. 提案内容の精査

効果、実施頻度、難易度、侵襲度、危険度、経費、  
諸外国の実施状況など

- (1) 記載内容や資料内容の正確性の確認
- (2) 追加で必要な情報の有無の確認
- (3) ネガティブ情報の確認
- (4) 実効性の確認（医療器具、医薬品の入手の可否なども含む）

など

→必要に応じて提案者に確認、修正を依頼する。

行政や専門家などにも問い合わせる。

# 評価に基づいた振り分け

## ● カテゴリーⅠ

新たな研究や厚生労働省の検討会による審議を追加しなくても救急救命処置として追加、除外、見直すことが望ましいと判断する。

## ● カテゴリーⅡ

救急救命処置として追加、除外、見直すためには厚生労働科学研究班等による研究の追加もしくは厚生労働省の検討会等による審査によるさらなる検討が必要と判断する。

## ● カテゴリーⅢ

追加することは不適切であると判断される処置



# 評価に基づいた振り分け

## ● 未了

提案内容について精査中であり、委員会としての判断に至っていない。

※当事業が継続された場合、次年度、引き続き検討する。

## ● 差戻し

必要な情報やそれを裏付ける資料が十分に示されていないため、提案内容の評価を行うことができない。

など

→ 振り分け結果は年度内に公表の予定